

| | |
|---------|-------|
| プログラム番号 | 06032 |
|---------|-------|

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

| | | | |
|--------------|---|-----------------------------------|--|
| ①大学名 研究科名 | 名古屋大学大学院環境学研究科 | | |
| ②学長名 | 平野 眞一 | | |
| ③所在地 | 〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町 | | |
| ④担当者 連絡先 | 所属部局・職名 | 環境学研究科 地球水循環研究センター・教授 | |
| | 担当者氏名 | 才野 敏郎 | e-mailアドレス ihpsc@hyarc.nagoya-u. ac.jp |
| | 電話・FAX番号 | 052-789-3487 / FAX ; 052-789-3436 | |
| ⑤ホームページURL | http://dhas.hyarc.nagoya-u.ac.jp/en/index_en.htm | | |
| ⑥大学院在学留学生数 | 902人(うち、国費留学生 272人) | | |

【2. プログラムの概略】

| | |
|---------------|---|
| ①プログラムの名称 | 大気水圏科学留学生特別プログラム |
| ②プログラムの形態 | 博士後期課程(3年間) |
| ③実施研究科・専攻 | 大学院環境学研究科・地球環境科学専攻 |
| | (所在地) 名古屋市千種区不老町 |
| ④連携大学・研究科・専攻名 | なし |
| ⑤受入れ学生数 | 5人(うち研究留学生優先配置人数: 3人) (うち日本人学生数: 0人) |
| ⑥担当教員数 | 合計 22人(うち専任: 22人、兼任: 0人、非常勤: 0人) |
| ⑦研究科長(代表者)名 | 所属部局・職名 大学院環境学研究科・教授 |
| | 研究科長名 林 良 嗣 |

【3. プログラムの内容】

1. 大気水圏科学留学生特別コースの趣旨

大気、海洋、陸域の物理・化学的性状、生態系について総合的な理解を目的とする大気水圏科学は、地球環境の現状把握や将来予測に有効な情報を与え、その取り組みが国内外から期待されている。アジアの中核であるわが国には、環境問題に対する国内ニーズへの対応だけでなく、アジア地域の環境問題の解決や環境保全の取り組みにリーダーシップを発揮することが要請されている。このような要請に応えるために、アジア地域の環境問題に指導的な立場で貢献できる人材の確保に喫緊に取り組む必要がある。

名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻に設置された大気水圏科学留学生特別コースでは、大気水圏科学の視点からアジア地域の環境を意欲的に研究する研究留学生を世界各国から広く公募する。アジア地域の環境問題に係る社会的な懸案事項の解決に貢献し、国際的視野をもってアジアの環境研究を先導できる中核研究者の育成を目指す。

2. 環境問題のグローバル化に対応

アジアの環境問題のグローバル化が懸念されている現状に応えるため、アジア地域の環境問題を多様な視点から研究する留学生の教育研究指導を重点的に行う。本プログラムでは、アジア諸国からの留学生、アジア諸国以外からの留学生、日本人大学院生（正規課程）を同じ環境で教育し、国際的に連携した研究が推進できる若手研究者の育成を目指す。

3. 教育・研究指導の特色

本プログラムでは、次世代の研究者の養成のための専門教育と分野横断的な幅広い環境学の諸分野の修得を目指した教育を並行して行うことを特色とする。

①専門教育

地球環境科学専攻の大気水圏科学分野の研究を行っている教員が中心となって専門性の高い研究指導を行う。また、大気水圏科学の視点でアジアの環境研究を進めるうえで必要な地球惑星科学の教育については、同専攻地球惑星科学分野の教員が教育・研究指導に協力する。

②分野横断型教育

同研究科の都市環境学専攻、社会環境学専攻の教員が留学生の教育に関与することで、理学・工学・人文社会学に亘った幅広い教育を行う。アジアの環境問題の構造と本質を体系的に理解し、その解決に専門性を生かして対応する能力を有する中核研究者の育成を目指す。また、本専攻の特徴である、専門分野の異なる他専攻の教員を指導教員に加える複数指導教員制を導入することで、環境分野の複合型学問分野の研究指導が可能となり、環境分野の多様な研究観の修得が可能である。

4. 博士学位の取得にむけた教育プロセス

本研究科に入学する大学院学生（留学生、正規学生）には、指導教員と相談の上で博士論文の研究テーマを決定し、具体的な研究計画書である「学修計画書」の作成が義務づけられている。学修計画書の作成は、学生自身が自ら辿る研究プロセスを明確に予見し、独立した研究者として必要な研究の企画・組織化・運営する能力を養う効果を狙うものである。さらに、年度末毎に指導教員は「研究指導報告書」を作成し、学修計画書とあわせて専攻内の教員相互による同僚評価を行う。研究科内の教員が大学院学生の研究の進捗状況を適切に把握して意見交換することでより効果的な研究指導を行う。

5. 教育・指導体制

①研究指導を担当する教員

本プログラムは、大学院環境学研究科地球環境科学専攻の地球環境変動論講座、気候科学講座、物質循環科学講座、放射線・生命環境科学講座、地球水循環科学講座の大気水圏科学分野の研究を行う 22 名の専任教員が主担当する。地球惑星科学分野の研究を行う地球環境システム学講座、地質・地球生物学講座、地球化学講座、地球惑星物理学講座、地球惑星ダイナミクス講座、地球史学講座に配置されている 32 名の専任教員は教育・研究指導の協力を行う。

②分野横断的研究の推進に向けた複数指導教員体制

複雑化する環境問題に柔軟な対応が可能である次世代の研究者の養成の観点から、既存の学術分野を横断した学際的な思考能力の育成、将来の環境問題に係る萌芽的な研究を奨励する。専門分野が異なる複数の指導教員をもつことが可能である。

③留学生に配慮した英語による授業

留学生に配慮し、地球環境科学専攻の大気水圏科学分野の教員が実施する博士後期課程の大学院学生向けの授業（セミナー等）は英語で開催する。また、英語による複数教員参加型のセミナーを適宜実施することで、研究成果を発表する能力の向上を促す。同専攻地球惑星科学系分野、他専攻の教員は、留学生の受講状況を踏まえて英語での授業を開催する。

6. 研究留学生の選考方法

本プログラムでは、アジアの環境研究を先導する資質を有する研究留学生を世界各地から公募する。また、アジアの環境問題に対するニーズや国際的な動向、大気水圏科学分野の研究の将来構想を鑑みて、関係機関（大学間学術協定校、部局間学術協定、国際共同研究プロジェクト参加機関）に留学生候補者の推薦を依頼する。候補者の選考は、書類審査とインタビューをもとに行う。

①書類選考

標準修業年限（3年）で博士学位を取得するために必要な基礎及び環境分野の専門学力、英語能力（論理的な文章作成能力を含む）、論理的な考察力（研究の方向性、研究計画）について、主担当教員で構成する選考委員会を設置して書類審査を行う。必要に応じて、現在所属している大学、事業所、推薦者に依頼し筆記試験を実施する。また、申請者の研究能力の評価について言及した 2 名の研究者からの推薦状の提出を義務づける。

②インタビュー

書類審査で合格した応募者に対しては、具体的な研究計画とその研究を計画的に進める方策に関して、複数教員によるインターネットを活用したヒヤリングを実施する。最低 3 人の教員による 3 回以上のヒヤリングを行う。必要に応じて、指導教員あるいは研究交流がある研究者により直接面接を行う。

7. プログラムの点検・教育品質管理・評価体制

本プログラムでは、標準修業年限内での博士（環境学）あるいは博士（理学）の学位の授与を目標としている。プログラムへの応募状況、標準就業年内の博士学位修得率、学位取得後の進路等を踏まえた本プログラムの自己点検を適宜行うことでプログラムの改善に取り組む。また、留学生と教員との懇談会を適宜開催し、授業アンケート等を活用することで効果的な留学生の指導・教育体制を整える。